

事前評価報告書

事業名: ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ

資金分配団体: 公益財団法人 東近江三方よし基金

報告者: 公益財団法人 東近江三方よし基金

実行団体: 一般社団法人Team Norishiro, 湖東まちづくり会社, NPO法人愛のまちエコ倶楽部, 社会福祉法人マーン園, 株式会社ガラバゴス, なんとおせっかい 移住応援団, テラまちコネクト, 3C「夢」Club実行委員会, 一般社団法人みかた麹社会, うんなん多文化共生まちづくり協議会, 産前産後ケアはく

実施時期: 2020年12月～2023年3月

対象地域: 全国、市

直接的対象グループ: _____

間接的対象グループ: _____

概要

事業概要	
地域では課題が絡み合って複雑化し、個人や世帯を孤立させ、その孤立がより深い課題を引き起こしている。このため、本事業では、従来のように個別団体が個別課題に取り組むのではなく、異なる強みを持つ主体が連携しつつ、同じ目標を目指し、地域総働で社会課題の解決へ取組んでいく活動を支援する。具体的には1) 経済的・物理的距離により学ぶ機会を失った子ども・若者へ学習の場や心のケアを提供する活動、2) ひきこもり、障害、認知症等の疾患者、在住外国人へのアウトリーチを地域参加につなげ、地域で働き・暮らせる支援活動、3) 産前産後の母親、ひとり親へ個別訪問や集いの場づくり、4) 若者・移住者に地域産業への就労、地域資源を活用した起業などの働きと、居場所があり地域とつながり暮らせるような支援活動を実施する団体の伴走支援と広報を行う。これらにより、従来から事業を展開している団体の総働体制を整え、人の命と暮らしを支える体制強化と、様々な課題を抱えた孤立していた個人や世帯が地域とつながり、誰もが孤立を感じず安心して働き暮らせる地域や社会を目指す。また、このコンソーシアムにより、市域レベルのローカルアクションの知的構造化を図る。	
中長期アウトカム	
3市域において、様々な課題を抱えた孤立していた個人や世帯が地域とつながり、誰もが孤立を感じず安心して働き暮らせる地域や社会になる。	
短期アウトカム	
資金的支援	1, 実行団体の対象地域において、孤立者へのコミュニケーションサポート体制の構築されつつあり、孤立者が本心を発言できはじめている地域になる。 2, 実行団体の対象地域において、孤立者及びその世帯へのアウトリーチ体制の構築されつつあり、孤立者・その世帯がアウトリーチを受けはじめている地域になる。 3, 実行団体の対象地域において、孤立者と地域とのつながる場の構築されつつあり、孤立者が役割を持ち地域とつながりはじめている地域になる。
非資金的支援	1-1, 実行団体への支援により、実行団体のスタッフのスキルが向上している。 1-2, 対象地域において、実行団体への支援や実行団体の活動により、協力者・賛同者が増え、地域での総働がはじまっている。

事業の背景

(1) 社会課題
地方市域では人口減少、超高齢化、若者の流出、世帯の小規模化・単身化、地域産業の衰退、非正規雇用の増加などにより、家族扶養による自助、職場や地域による互助・共助、行政の公助による地域社会の支え合いのしくみが急激に弱体化している。このため、生活困窮、ひきこもり、疾病、障害、出産・子育て、移住など様々な分野の課題が絡み合って複雑化し、個人や世帯を孤立させ、その孤立がより深い課題を引き起こしている。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
対象者ごとに『縦割り』で整備された公的な支援制度の下で、対応が困難なケースが浮き彫りとなっている。これに対応するため、生活全般にわたる困りごとの相談窓口が設置されたが、相談に辿りつけなかったり、相談だけで留まり問題解決に至っていなかったりしている。また、相談を受けてからの公的支援は縦割りのため、個人や世帯の包括的な情報が共有されておらず複合的な課題を抱える個人や世帯の支援は不十分である。
(3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義
改めて、市域全体を俯瞰し、暮らしと地域づくりの視点から行政制度の隙間を最大限小さくする挑戦を行う。複雑化・複合化した孤立の解消は、身近な様々な関係者が総働で挑むことが不可欠であり、人的資源も含めた地域資源を把握して個別にアウトリーチ・支援できる市域レベルの中間支援団体だから実施できるものである。なお、コンソーシアムにより、学び合い全国に自治の文脈でその理念を展開でき、全国のモデルケースとなる。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役割等
内部	実行団体 ヒアリング調査、とりまとめ	プログラムオフィサー
	実行団体 ヒアリング調査	プログラムオフィサー
	資金分配団体 デスクッション調査	プログラムオフィサー
外部		

評価実施概要

評価実施概要

実施日・対象者

2021年6月17・18・28日 東近江市3実行団体

2021年6月26日 南砺市4実行団体

2021年7月1・2日 雲南市4実行団体

文献調査項目

- ・対象グループの地域における規模を把握できているか？

インタビュー項目

- ・地域で社会的孤立者が発生する問題構造を十分に把握できているか？
- ・対象グループはどのような問題点・関心・期待・懸念を持っているか？
- ・対象グループの地域における規模を把握できているか？
- ・対象グループを地域につなぐために必要な事項を把握できているか？
- ・総働のための重要なステークホルダーは誰か？
- ・それぞれのステークホルダーは、どのような関心、期待、懸念、強み、弱みなど特徴を持っているか？
- ・対象グループ以外への波及効果はあるのか？

ディスカッションの項目

- ・最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができているか？
- ・目標・アウトカムや事業設計の内容達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか？
- ・達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか？
- ・目標達成の道筋は、地域の人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総働したものになっているか？
- ・計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が検討されているか？

自己評価の総括

実行団体へのインタビュー調査、プログラムオフィサーによるディスカッション調査を通して、目標、現状の課題、目標を達成するための事業の道筋の見える化と共有化が行われ、事前評価の目的は達成されたと考える。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>【評価小項目】</p> <p>地域で社会的孤立者が発生する問題構造を十分に把握できているか</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>地域で社会的孤立者が発生する問題構造は、次のように整理できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、超高齢化、若者の減少、世帯の小規模化・単身化、地域産業の衰退、非正規雇用の増加などにより、家族扶養による自助、職場や地域による互助・共助、行政の公助による地域社会の支え合いのしくみが急激に弱体化している。 ・社会的孤立者が把握できていない。 ・身近に相談できる場や相手がいない。 ・複雑化・複合化した課題であるが制度は縦割りで総合的な対応が難しい。 ・地域への情報提供が不足して理解者が少ない。 ・支援者が少ない。 ・現状ある公的制度やサービスまでつなげる手段がない。 ・地域で学び、働き、暮らしていく力をつけられる制度がない。 <p>【結論】</p> <p>実行団体の関係者へのインタビュー調査の結果から、地域で社会的孤立者が発生する問題構造が整理できている。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	高い	<p>【評価小項目】</p> <p>対象グループはどのような問題点・関心・期待・懸念を持っているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>対象グループの問題点・関心・期待・懸念は、次のとおりである。</p> <p>(関心・期待)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で頼れる場所・人 ・継続して相談できる人 ・様々な分野の支援者 ・世間体を考慮した支援 ・周辺住民の理解 ・地域で学び、働き、暮らしていく力をつけられる場 <p>【結論】</p> <p>実行団体へのインタビュー調査の結果から、対象グループの問題点・関心・期待・懸念を把握して、整理できている。</p> <p>【評価小項目】</p> <p>対象グループを地域につなぐために必要な事項を把握できているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>対象グループを地域につなぐために必要な事項は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困った時に相談できる相手をつくること。 ・地域に知っている人をつくること。 ・家庭・学校以外の地域で社会経験を積むこと。 ・家庭・学校以外の様々な年齢層の地域の人に接する機会をつくること。 <p>【結論】</p> <p>関係者へのインタビュー調査の結果から、対象グループを地域につなぐために必要な事項が整理できている。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>【評価小項目】</p> <p>最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>本事業の事業概要は別紙 事業概要図のとおりである。</p> <p>【結論】</p> <p>プログラムオフィサーのディスカッションにより、事業概要図（ロジックモデル）が的確で、望ましいアウトカムをもたらすと判断できる。</p> <p>【評価小項目】</p> <p>目標・アウトカムや事業設計の内容達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>本事業のアウトプット、アウトカムの指標・目標は、事業計画書のとおりである。</p> <p>【結論】</p> <p>プログラムオフィサーのディスカッションにより、データ収集が可能なアウトプット、アウトカムの指標・目標が設定できている。</p>
	④事業計画の妥当性	高い	<p>【評価小項目】</p> <p>目標達成の道筋は、地域の人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総動員したものになっているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発見 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立者を地域、行政、専門機関などで発見する。 2. 接触、アウトリーチ <ul style="list-style-type: none"> ・専門機関が接触する。 ・専門機関が中心となって多様な支援者をつなぎアウトリーチを行う。 3. 地域とつながる <ul style="list-style-type: none"> ・地域に情報提供して理解者を増やす。 ・専門機関が地域での支援者を増やす。 ・学び、働き、暮らしを通して、孤立者となつたり、地域での役割を育む。 <p>【結論】</p> <p>実行団体関係者へのインタビュー調査により、目標達成のための人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総動員が整理できている。</p> <p>【評価小項目】</p> <p>計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が検討されているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>計画の妨げとなる事象とそれを軽減するための対策は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理：個人情報を取り扱う際の規程策定 ・活動の資金の確保：資金調達の計画づくりと実践 ・周辺からのクレーム、周辺とのトラブル対応：クレームとトラブルの対処方法の検討 <p>【結論】</p> <p>実行団体関係者へのインタビュー調査より、関係者で計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が整理・合意されている。</p>

事業設計の分析の詳細

事業設計ツールの改善内容

実行団体関係者へのインタビュー調査より、目標（アウトカム、アウトプット）を変更した。

「事業設計ツール」とは、活動からアウトカムまでの論理的なつながりを図示したもの。セオリーオブチェンジやロジックモデル等のこと。

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は、事業終了時から10年後に事業実施によって、「様々な課題を抱えた孤立していた個人や世帯が地域とつながり、誰もが孤立を感じず安心して働き暮らせる地域や社会になる。」ことが目標（アウトカム）である。事前評価においては、目標（アウトカム、アウトプット）、現状の課題、目標を達成するための事業の道筋の見える化を、3市のプロジェクトマネージャー間で行い合意することが特に重要であり、事前評価を通して達成されたと考える。評価においては、本事業による地域の総働を検証することが特に重要だと考え、1)地域の総働を示すサポート体制図、2)総働がわかる地域の状態の具体例、3)ターゲット層の孤立解消を測る目安となる「つながり数」を、関係者で合意して指標に設定したことは重要と考える。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

本事業ではローカルな総働がポイントであるため、事業着手時に、各実行団体でロジックモデルを作成して、関係者と共有している。また、3市がコンソーシアムを組んでいることを生かして、市域を超えた実行団体同士の学びあいを行い、知の移転を促進させる。

添付資料